

令和3年度総合計画
実施計画事業等評価結果

令和4年8月

上三川町

令和3年度実施計画事業 評価結果について

1 はじめに



実施計画事業は、「上三川町第7次総合計画」基本構想{平成28(2016)年度～令和7(2025)年度}に示す、上三川町の将来像「共に創る 次代に輝く 安心活力のまち 上三川」の実現を目指し、基本計画に示される主要施策等に基づき、具体的に実施する事務事業となります。

2 進捗状況の検証・評価方法について

【上三川町第7次総合計画-後期基本計画-】に掲げる実施計画事業は令和3年度時点で総計140の事業があり、全事業を4年にわたって評価するものとなります。

本年は12の担当課・31件の事業について、進捗状況を客観的に検証するため、総合計画等評価委員会において評価を行いました。

「評価委員会評価」は、令和7年度に目標を達成するため、令和3年度の実績がどの程度進捗しているかを、下の3段階で評価したものです。

3段階評価 (単年度評価)	 	A	まちづくりに対して有効である	<ul style="list-style-type: none"> このまま事業を進めていくべきである よりよいまちづくりに貢献している
		B	まちづくりに対して有効であるが、改善の余地がある	<ul style="list-style-type: none"> 事業について改善する余地がある
		C	まちづくりに対して有効性が少ない	<ul style="list-style-type: none"> 事業に大幅な工夫・改善が必須と判断される

3 令和3年度の実施状況について

令和3年度実績は、31事業中30事業で「まちづくりに対して有効である」、1事業で「まちづくりに対して有効であるが、改善の余地がある」と評価されました。今後、評価委員会で受けた意見・提言をもとに、令和7年度の目標達成に向けて事業を見直し、推進してまいります。

3段階評価別	事業数	全体に占める割合 (31事業中)
A まちづくりに対して有効である	30	96.8%
B まちづくりに対して有効であるが、改善の余地がある	1	3.2%
C まちづくりに対して有効性が少ない	0	0.0%
合計	31	100.0%

評 価 事 業 一 覧

担当課	ページ 番号	事業名	評価 平均点	委員会 評価
総務課	3	消防設備整備事業	5.00	A
	4	庁舎・設備維持修繕事業	4.43	A
企画課	5	業務改善推進事業	5.00	A
地域生活課	6	資源再利用運動推進事業	4.71	A
	7	自治会公民館整備支援事業	4.14	A
健康福祉課	8	敬老祝金支給事業	4.43	A
	9	障がい者等支援施設運営事業	5.00	A
	10	健康づくり事業	5.00	A
子ども家庭課	11	ベビーギフト事業	5.00	A
農政課	12	基幹水利施設ストックマネジメント事業	5.00	A
	13	農業再生対策推進事業	5.00	A
	14	土地改良施設維持管理適正化事業	5.00	A
商工課	15	プレミアム商品券事業	4.75	A
都市建設課	16	交通安全施設整備事業	5.00	A
	17	公園通り整備事業	4.75	A
	18	富士山地区市街地整備事業	5.00	A
	19	公園維持管理事業	4.50	A
建築課	20	定住のための住宅取得支援事業	3.50	B
上下水道課	21	特定環境整備事業	5.00	A
	22	流域下水道事業	5.00	A
教育総務課	23	各種行事大会参加事業	4.75	A
	24	学校図書館司書配置事業	5.00	A
	25	学級運営等改善事業（小学校）	4.75	A
	26	学級運営等改善事業（中学校）	4.50	A
	27	小学校教師用指導書等整備事業	5.00	A
	28	中学校教師用指導書等整備事業	5.00	A
生涯学習課	29	かみのかわ図書ネットワーク運営事業	4.75	A
	30	生涯学習推進事業	4.50	A
	31	体育施設等指定管理事業	4.75	A
	32	テニスコート人工芝改設事業	4.25	A
	33	中央公民館施設整備事業	4.25	A

各評価委員によるA、B、Cの3段階評価を、Aを5点、Bを3点、Cを1点として算出した平均点を委員会の評価としています。

【A：平均4点以上 B：平均4点未満3点以上 C：平均3点未満】

事業評価シート

基本情報	担当課	総務課	係名	防災係					
	基本目標	“安心安全・定住”のまちづくり		施策	消防・防災体制の充実				
	基本施策	消防・防災体制の充実		事業	消防設備整備事業				
	具体的な事業の概要・説明	多様化・甚大化する災害等に備え、消防施設の整備・充実を図る。 消防団員詰所や消防自動車の計画的な修繕・更新を行い、消防防災体制の充実を図ることにより、安心・安全なまちづくりを推進する。							
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	消防団員詰所の巡回	回数	- 2	2	2	2	2	2	2
	消防ポンプの点検	回数	- 2	2	2	2	2	2	2
	<p>上段：目標値/下段：実績値</p>								
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント				評価		
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）				A		
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
		C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる				A			
	B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある							
	C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある							
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる				A			
	B	事業の目的の達成には改善が必要である							
	C	事業の目的を達成することが困難である							
評価の理由									
消防施設の維持管理について町と消防団で定期的に検査等を行い、不具合等があれば計画的に修繕等を行っている。									
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない			
	上記設問において2または1を選択した理由(目標達成に向けての問題点)								
事業分析	今後の取組	老朽化している消防団員詰所（3-1, 3-3）や使用年数の長い消防車について、計画的な更新を行う。							
2次評価	コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時に正常に稼働することを強く求められている設備であることから、本事業は有効である。 ・甚大な災害が発生しないことが一番だが、発生した際の円滑な対応が求められると思う。計画的な修繕・更新を行い安心安全なまちづくりを図ってほしい。 ・頻繁に発生する地震や、異常気象に備えて常に消防施設の点検をしておく事は大切である。計画的な更新を継続して欲しい。 				評価			
						A			

事業評価シート

基本情報	担当課	総務課	係名	管財係					
	基本目標	“協働・健全財政”のまちづくり		施策	自立した自治体経営の確立				
	基本施策	自立した自治体経営の確立		事業	庁舎・設備維持修繕事業				
具体的な事業の概要・説明	<ul style="list-style-type: none"> ・建設から40年を超える庁舎の修繕・改修を行う。 ・庁舎及び付属施設設備の機能を良好に保つことで、町民サービスが支障なく行われるとともに、職員の労働環境保持に務める。 ・大規模改修工事（外壁・建具・防水・空調・電気設備・給排水設備・消防設備等） 								
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	庁舎大規模改修工事	件	- 0	1 1	1 1	1	1	1	1
	庁舎電力使用量の削減(H28年度比)	%	- 109.5	100.0 119.0	100.0 115.4	100.0	100.0	100.0	100.0
	上段：目標値/下段：実績値								
定性評価	評価の観点		基準	評価のポイント					評価
	1	事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）					B
			B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある					
			C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない					
2	事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる					B	
		B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある						
		C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある						
3	事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる					A	
		B	事業の目的の達成には改善が必要である						
		C	事業の目的を達成することが困難である						
評価の理由									
令和2年度から大規模改修工事に着手し、令和3年度には、外壁や建具（サッシ・窓）の改修が終了した。改修は計画的に実施できている。設備の老朽化、感染症対策での空調負担増などにより電力使用量が増加傾向であるが、建具改修の効果により使用電力量は減少した。今後の改修での効率的な機器への更新で達成が期待できる。									
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況		5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない		
	上記設問において2または1を選択した理由（目標達成に向けての問題点）								
事業分析	今後の取組		<ul style="list-style-type: none"> ・令和4、5年度はトイレ等の改修を行い、令和6年度以降内部の改修を計画的に行う。 ・これまで以上に来庁者や職務に影響がある工事となってくるため、効率・安全確保・コストなど検討しながら進める必要がある。 ・電気使用量削減のため、効率的な機器の選定・更新を行っていく必要がある。 						
2次評価	コメント		<ul style="list-style-type: none"> ・修繕費用高騰への備えや、工期の長期化への対策をした上で町民サービスの維持向上につながればと思う。 ・人命に係る設備(エレベーター等)は、しっかりとした予算を組んでほしい。 ・電力量等の削減に対しても、計画的な対応を考えて進めてほしい。 					評価	
			A						

事業評価シート

基本情報	担当課	企画課	係名	総合政策係																																																					
	基本目標	“協働・健全財政”のまちづくり		施策	自立した自治体経営の確立																																																				
	基本施策	自立した自治体経営の確立		事業	業務改善推進事業																																																				
	具体的な事業の概要・説明	定型業務を自動化して業務効率化を図ることで、町民サービスの向上を図る。 令和3年度までに以下の5業務についてRPAを実装した。 ①しらさぎマラソン申込データ入力、②がん検診データ入力、③給与支払報告書データ入力、④ふるさと納税（紙申請）のデータ入力、⑤ふるさと納税（e-tax申請）のデータ入力																																																							
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7																																																
	AI-OCRを導入した業務の数(累計)	業務	- 0	0 0	10 5	15	20	20	20																																																
	RPAを導入した業務の数(累計)	業務	- 0	0 0	4 5	8	12	16	20																																																
	上段：目標値/下段：実績値																																																								
<p>AI-OCRを導入した業務の数(累計)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>目標</th><th>実績</th></tr> <tr><td>R1</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>R2</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>R3</td><td>10</td><td>10</td></tr> <tr><td>R4</td><td>15</td><td>15</td></tr> <tr><td>R5</td><td>20</td><td>20</td></tr> <tr><td>R6</td><td>20</td><td>20</td></tr> <tr><td>R7</td><td>20</td><td>20</td></tr> </table>					年度	目標	実績	R1	0	0	R2	0	0	R3	10	10	R4	15	15	R5	20	20	R6	20	20	R7	20	20	<p>RPAを導入した業務の数(累計)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>目標</th><th>実績</th></tr> <tr><td>R1</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>R2</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>R3</td><td>4</td><td>4</td></tr> <tr><td>R4</td><td>8</td><td>8</td></tr> <tr><td>R5</td><td>12</td><td>12</td></tr> <tr><td>R6</td><td>16</td><td>16</td></tr> <tr><td>R7</td><td>20</td><td>20</td></tr> </table>					年度	目標	実績	R1	0	0	R2	0	0	R3	4	4	R4	8	8	R5	12	12	R6	16	16	R7	20	20
年度	目標	実績																																																							
R1	0	0																																																							
R2	0	0																																																							
R3	10	10																																																							
R4	15	15																																																							
R5	20	20																																																							
R6	20	20																																																							
R7	20	20																																																							
年度	目標	実績																																																							
R1	0	0																																																							
R2	0	0																																																							
R3	4	4																																																							
R4	8	8																																																							
R5	12	12																																																							
R6	16	16																																																							
R7	20	20																																																							
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント						評価																																																
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）						A																																																
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある																																																						
		C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない																																																						
2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる						A																																																	
	B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある																																																							
	C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある																																																							
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる						A																																																	
	B	事業の目的の達成には改善が必要である																																																							
	C	事業の目的を達成することが困難である																																																							
評価の理由																																																									
AI-OCRを導入した子育て支援センターのアンケート集計業務、RPAを導入したふるさと納税の業務時間は、ともに80%削減することができるなど、RPA導入により業務効率の向上が見られた。																																																									
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向っていない																																																			
	上記設問において2または1を選択した理由(目標達成に向けての問題点)																																																								
事業分析	今後の取組	引き続き、AI-OCR及びRPAの導入を進めていく。 また、昨年度実装が遅れた業務については効果検証を実施していく。																																																							
2次評価	コメント	・大幅な業務効率の改善につながっている。またAI-OCRやRPA導入のコストをカバーできており、有効と考える。町民サービスの更なる向上につなげて欲しい。 ・積極的に業務効率化に取り組み、その効果から生まれた時間や費用等が見えてきたら、人事や定数管理に波及させていくことも視野に入れてほしい。						評価																																																	
								A																																																	

事業評価シート

基本情報	担当課	地域生活課		係名	環境係				
	基本目標	“自然・環境“のまちづくり		施策	環境衛生の充実				
	基本施策	環境衛生の充実		事業	資源再利用運動推進事業				
	具体的な事業の概要・説明	資源再利用運動推進事業は、町のごみの排出量を減らし、貴重な資源をリサイクルするために、「資源を地域で共同集荷し、売却した団体が町長が適当と認める団体」（自治会や育成会など）で資源再利用運動（廃品回収）を行った団体に対して報奨金を交付している。							
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	回収団体数	団体	- 53	55 56	56 48	57	58	59	60
	資源物回収量	トン	- 1590	1600 1506	1600 1468	1600	1600	1600	1600
	上段：目標値/下段：実績値								
<p>回収団体数</p>					<p>資源物回収量</p>				
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント					評価	
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）					B	
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
		C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる					A		
	B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある							
	C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある							
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる					A		
	B	事業の目的の達成には改善が必要である							
	C	事業の目的を達成することが困難である							
評価の理由									
本事業を実施することで、燃やして処理するごみや埋立処理するごみを減らすことができ、資源を再利用することができる。									
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない			
	上記設問において2または1を選択した理由(目標達成に向けての問題点)								
事業分析	今後の取組	現状においても、ごみと資源物の分別はされているが、さらなる分別の周知徹底を図っていく。							
2次評価	コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・町民に対するPRをより一層行ってほしい。 ・町も、もう少し町のゴミステーションを見まわって、問題がでたら広報誌にのせていってほしい。広報誌にゴミの出し方のコーナーを作るなど、町民の質問や悩みに答えたり、ゴミの出し方や問題点などを細かく知らせてほしい。 					評価		
							A		

事業評価シート

基本情報	担当課	地域生活課	係名	生活係					
	基本目標	“コミュニティ・地域力”のまちづくり		施策	コミュニティ活動の推進				
	基本施策	コミュニティ活動の推進		事業	自治会公民館整備支援事業				
	具体的な事業の概要・説明	社会教育法に基づく公民館類似施設である自治会公民館の修繕等を支援するため、新築、増築又は改築における本体及び付随工事費に対して補助を行う。 ・新築 補助対象経費の3/10以内の額で上限220万円まで ・増築又は改築 補助対象経費の3/10以内の額で130万円まで							
定量評価		単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	補助申請手続きのPR	回	- 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2
	補助申請数	自治会	- 2	5 3	5 3	5 3	5 3	5 3	5 3
	上段：目標値/下段：実績値								
定性評価	評価の観点		基準	評価のポイント					評価
	1	事業の必要性	A B C	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する） 休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある 休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない					B
2	事業の効率性	A B C	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる 現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある 事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある					A	
3	事業の有効性	A B C	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる 事業の目的の達成には改善が必要である 事業の目的を達成することが困難である					A	
評価の理由									
自治会公民館は最小限のコミュニティ拠点施設であり、コミュニティ活動を活性化させるためには継続的な支援が必要である。									
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない			
	上記設問において2または1を選択した理由(目標達成に向けての問題点)								
事業分析	今後の取組	老朽化が顕著な自治会公民館が多く災害等により申請件数も増大傾向にある。また、最近は災害等による修繕が増えている状況であり、迅速な支援に取り組んでいく。							
2次評価	コメント	・新築に対する上限額を上げる必要があると思う。 ・公民館は地域の防災のためにも必要なため、今後町にも自治会にかかわってもらいたい。 ・老朽化が激しい自治会公民館の改築、修繕は、今後増加すると思う。一方で、公民館の存在意義が不明瞭になりがちだと思う。もう一度、公民館のあり方を明確にして、取組んでほしい。						評価	
								A	

事業評価シート

基本情報	担当課	健康福祉課			係名	高齢者支援係				
	基本目標	“子ども・健康・福祉“のまちづくり			施策	高齢者支援の充実				
	基本施策	高齢者支援の充実			事業	敬老祝金支給事業				
	具体的な事業の概要・説明	高齢者への長寿の祝福 ※9月1日を基準として、本町に1年以上住所を有する者で、年度内に80歳・85歳・90歳・95歳・100歳の節目年齢になる高齢者に対し祝金を支給する。								
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	交付対象者に対する実交付率	%	94.73	100.00 95.80	100.00 97.06	100.00	100.00	100.00	100.00	
	<p>上段：目標値/下段：実績値</p>									
	<p>交付対象者に対する実交付率</p> <p>100.00 50.00 0.00</p> <p>R1... R2 R3 R4 R5 R6 R7</p> <p>■ 目標 ● 実績</p>									
定性評価	評価の観点		基準	評価のポイント					評価	
	1	事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）					B	
			B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
			C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
	2	事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる					B	
			B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある						
			C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある						
3	事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる					B		
		B	事業の目的の達成には改善が必要である							
		C	事業の目的を達成することが困難である							
評価の理由										
高齢者は敬老祝金を楽しみにしているが、対象者は増加傾向であり、経費増が見込まれる。高齢化率を考慮し、対象者や交付額の見直しを図ることが必要。ただし、令和3年度に敬老会特別記念品の配布を廃止したため、見直し時期に関しては考慮する必要がある。										
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向っていない				
事業分析	上記設問において2または1を選択した理由(目標達成に向けての問題点)	対象者への周知を数回行っているが、未申請者に対する対策が必要。また、滞納があり支給要件に該当しない場合の対策も考慮する。								
	今後の取組	未申請者への周知方法、回数の見直しや、滞納者へのアプローチ（税務課と共同）など対策を講じ、交付率アップに努める。								
2次評価	コメント	<ul style="list-style-type: none"> 概ね目標達成出来ていると考える。今後も予算の状況、高齢者の人数の状況を考えながら、進めていきたい。 申請しなければ祝金は支給されないとのことなので、高齢者の1人暮らしの人などに対しても配慮し、支給率向上を目指してほしい。 						評価		
								A		

事業評価シート

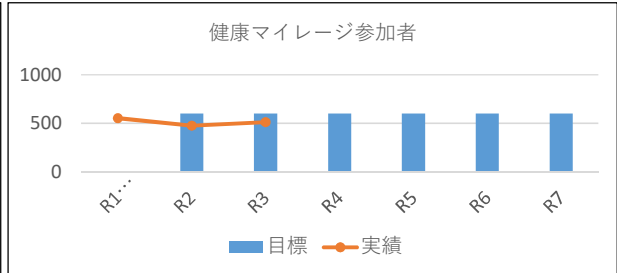
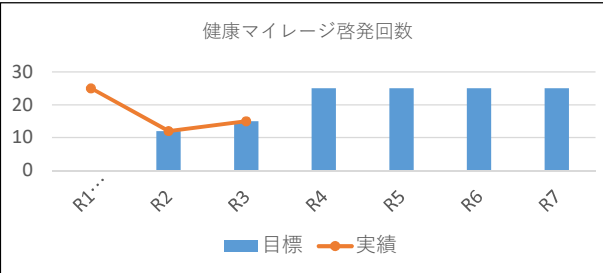
基本情報	担当課	健康福祉課	係名	福祉人権係							
	基本目標	“子ども・健康・福祉“のまちづくり		施策	障がい者支援の充実						
	基本施策	障がい者支援の充実		事業	障がい者等支援施設運営事業						
具体的な事業の概要・説明	<p>【事業概要】・「上三川ふれあいの家ひまわり」及び「こども発達支援センター」の指定管理料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・備品の更新 ・ひまわり施設内の老朽化に伴う機器等の修繕 ・老朽化が著しいこども発達支援センターの外壁改修 <p>【事業説明】・ふれあいの家：（協定事業）生活介護、就労継続支援B型、日中一時支援（委託事業）生活相談支援、地域活動支援センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども発達支援：（協定事業）児童発達支援、放課後等デイサービス、日中一時支援、保育所等訪問支援 ・ふれあいの家の備品（パン製造機器）更新 ・こども発達支援センターの外壁改修 										
	指標名	単位	R1（基準値）	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	ふれあいの家ひまわり運営事業の実施の有無（実施：1、未実施：0）			-	1	1	1	1	1	1	
こども発達支援センターおひさまの家運営事業の有無（実施：1、未実施：0）			-	1	1	1	1	1	1		
上段：目標値/下段：実績値											
定量評価	ふれあいの家ひまわり運営事業の実施の有無					こども発達支援センターおひさまの家運営事業の有無					
定性評価	評価の観点		基準	評価のポイント						評価	
	1	事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）						A	
			B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある							
			C	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）							
2	事業の効率性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						A		
		B	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない								
		C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある								
3	事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる						A		
		B	事業の目的の達成には改善が必要である								
		C	事業の目的を達成することが困難である								
評価の理由											
障がい者・児の日中における活動の場を確保し、また、就労の支援や日常的に介護をしている家族等の一時的な休息のための場を提供している。また、障がい者・児や家族からのあらゆる相談を受け、相談者の意思及び人格の尊重をしながら支援を行うなど、障がい者・児及び家族にとって、なくてはならない施設であるため、事業を継続していく必要がある。											
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況		5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向っていない				
	上記設問において2または1を選択した理由（目標達成に向けての問題点）										
事業分析	今後の取組		ふれあいの家の備品（パン製造のための厨房機器）の計画的な更新、こども発達支援センターの老朽化による外壁改修等の実施に向けた取り組みをしていく。								
2次評価	コメント		<ul style="list-style-type: none"> ・町内で少ない障がい者施設であるため、運営にかかるコストは必要であり、事業は有効である。 ・支援施設は、本人、及び家族にとっては、不可欠な存在だと思う。今後も継続して取組むことで、家族の心の負担減にもつながると考える。 ・障がい者が働けるふれあいの家は、障がい者にとってなくてはならない憩いの場である。安心して働けるよう、整備改修は必要。 						評価		
									A		

事業評価シート

基本情報	担当課	健康福祉課	係名	成人健康係	
	基本目標	“子ども・健康・福祉“のまちづくり		施策	健康づくり・医療体制の充実
	基本施策	健康づくり・医療体制の充実		事業	健康づくり事業
	具体的な事業の概要・説明	町民が健康寿命を延ばし生涯にわたって健康で暮らせるよう、生活習慣病予防及び改善のため運動教室・ウォーキング教室を実施する。 町民の健康づくりに取り組む意欲を高める施策として健康マイレージ事業・FUN+WALKを実施する。			

指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
健康マイレージ啓発回数	回	- 25	12 12	15 15	25	25	25	25
健康マイレージ参加者	人	- 552	600 475	600 513	600	600	600	600
健康マイレージ参加者の健康づくりの実践継続意欲	%	- 84.8	100 92.2	100 99.5	100	100	100	100

上段：目標値/下段：実績値



評価の観点	基準	評価のポイント	評価
2	事業の効率性	A 現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる B 現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある C 事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある	A
3	事業の有効性	A 事業の目的が達成できる、または達成が期待できる B 事業の目的の達成には改善が必要である C 事業の目的を達成することが困難である	A

評価の理由

健康マイレージ事業は町民に定着してきており、健康に関する意識づけに有効である。

目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向っていない
	上記設問において2または1を選択した理由(目標達成に向けての問題点)					

事業分析	今後の取組	感染への不安がある中でも町民の健康づくりに対する意識が回復しているため、参加者数が回復傾向にあると考えられる。引き続き、本事業を推進し、結果として健康寿命の延伸につなげることができるよう取り組む。
------	-------	--

2次評価	コメント	<ul style="list-style-type: none"> 参加する事で友人も増え、社会の中でまた1つ広がりを持つ事が出来る事業。 コロナ明けに屋外を中心に健康づくりの為のマインドが高まっていくと思う。生活習慣病予防の側面から積極的に誘致してほしい。また、利用者(参加者)の体験価値向上を図り、リピート率を上げるように取組んでほしい。 健康マイレージをする事で、体を動かす事が出来る様になったとの声があるため、継続して行って欲しい事業。 	評価
			A

事業評価シート

基本情報	担当課	子ども家庭課	係名	母子健康係
	基本目標	“子ども・健康・福祉”のまちづくり	施策	子育て支援の充実
	基本施策	子育て支援の充実	事業	ベビーギフト事業
	具体的な事業の概要・説明	次代を担う子どもの誕生を祝福すると共に、子育てに喜びを感じ、愛情豊かな家族の絆を育むことを応援する。 出生届出時、上三川町に住民登録のある児童の出産に際し、育児用品などを対象としたギフトカタログを贈呈する（1万円程度）。		

指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
ベビーギフトPR	回	-	250	250	250	250	250	250
合計特殊出生率	人	-	1.51	1.51	1.51	1.51	1.51	1.51
		1.35						

R2, R3の合計特殊出生率は県による公表がまだされていないため、公表次第の反映となります。

上段：目標値/下段：実績値

ベビーギフトPR

合計特殊出生率

評価の観点	基準	評価のポイント	評価
1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）	B
	B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある	
	C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない	
2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる	B
	B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある	
	C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある	
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる	A
	B	事業の目的の達成には改善が必要である	
	C	事業の目的を達成することが困難である	

評価の理由
 全ての対象者が受け取り出来たか追跡調査等の必要性があり、効率性の面で実施方法は工夫が必要である。出生率の数値は、社会情勢等の影響により変動するため事業廃止後の影響については検証しにくい。

目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向っていない
	上記設問において2または1を選択した理由(目標達成に向けての問題点)					

事業分析	今後の取組	全ての出生児に等しく支援できることは、豊かな子育て環境づくり支援の観点から妥当である。今後も、子育て世帯のニーズの把握に努め、子育て環境づくりの支援及び出生率の向上を目指す。
------	-------	---

2次評価	コメント	<ul style="list-style-type: none"> 誕生のお祝いを町で行なっていく事はとても良いことなので、今後も続けていってほしい。 少子化の進行により子育て支援の一環として、本事業は有効である。 上三川町は子育てしやすい町とよく耳にするが、ベビーギフトカタログよりも上三川町の業者で購入出来る商品券の様なものが良いのでは。 全ての対象者が受け取れるよう、一層の努力をしてほしい。 	評価
		A	

事業評価シート

基本情報	担当課	農政課	係名	農村振興係					
	基本目標	“産業・しごと・活力”のまちづくり	施策	農業の振興					
	基本施策	農業の振興	事業	基幹水利施設ストックマネジメント事業					
	具体的な事業の概要・説明	本町農業の生産性の維持・向上を図るため、農業生産の基盤となる公益的機能を有する国営造成施設、岡本頭首工の整備・改修等の事業を支援する。							
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	県、関係市町と連携した維持管理体制の運営 (実施：1、未実施：0)		-	1	1	1	1	1	1
	(参考数値) 町負担額	千円	-	2,890	340	155			
			994	1,923	753				
上段：目標値/下段：実績値									
<p>県、関係市町との連携した維持管理体制の運営</p>					<p>(参考数値) 町負担額</p>				
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント				評価		
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる (法に抵触する)				A		
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
		C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
	2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる				A		
		B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある						
		C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある						
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる				A			
	B	事業の目的の達成には改善が必要である							
	C	事業の目的を達成することが困難である							
評価の理由									
実施方法や費用負担については関係市町及び土地改良区との協定に基づいている									
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない			
	上記設問において2または1を選択した理由 (目標達成に向けての問題点)								
事業分析	今後の取組	本町農業の生産基盤の維持を図るため、今後も継続して岡本頭首工の整備・改修等の事業を支援する。							
2次評価	コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣市町との公益的事業であり有効と考える。 ・農業の生産性維持、向上のために必要な整備・改修であり、妥当と思う。 ・農業基盤整備には重要な役割をになっていると考えるが、かなりの老朽化も考えられるので、計画的な保守改善を実施し、よりよい状況を維持できるよう努めていく必要性はあると考える。 				評価			
						A			

事業評価シート

基本情報	担当課	農政課	係名	農産園芸係					
	基本目標	“産業・しごと・活力”のまちづくり		施策	農業の振興				
	基本施策	農業の振興		事業	農業再生対策推進事業				
	具体的な事業の概要・説明	<p>【概要】①米の需要に即応した生産を推進し、水田農業経営の安定及び発展を図る。 ②大規模経営体を育成、確保するとともに、これらの経営体への農地の利用集積を図る。 ③生産調整田や畑の不作付地の有効活用を推進し、食糧自給率の向上を図る。</p> <p>【説明】需要に即応した米の生産の推進、効率的かつ安定的な生産を行う担い手の育成・確保、更には米以外の作物の作付け推進など、水田農業の構造改革に取り組む町農業再生協議会に対し、必要な経費を補助する。</p>							
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	【成果】主食用米の作付率	%	- 79.6	100.0 79.5	100.0 72.6	100.0	100.0	100.0	100.0
	【成果】土地利用型作物の作付面積(麦・新規需要米等)	ha	- 565	525 568	589 663	589	600	600	600
	【成果】水田ビジョンの担い手が利用権設定により集積した水田面積	ha	- 921	966 987	1032 1001	1041	1081	1121	1161
上段：目標値/下段：実績値									
<p>土地利用型作物の作付面積</p>					<p>担い手が利用権設定により集積した水田面積</p>				
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント				評価		
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる(法に抵触する)				A		
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
		C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる				A			
	B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある							
	C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある							
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる				A			
	B	事業の目的の達成には改善が必要である							
	C	事業の目的を達成することが困難である							
評価の理由									
国の米政策に協調し水田農業の構造改革に取り組む町農業再生協議会を支援し、水田農業経営の安定及び発展に寄与した。									
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向っていない			
	上記設問において2または1を選択した理由(目標達成に向けての問題点)								
事業分析	今後の取組	米の消費量が減少し米価が低迷するなど、農業所得は減少傾向にあることから、担い手となる認定農業者及び集落営農組織の育成並びに法人化の推進や、担い手への農地の集積等により麦、新規需要米等の土地利用型作物の生産拡大を図るなど、高収益農業の確立のための取組を推進する。							
2次評価	コメント	<ul style="list-style-type: none"> 経営所得安定対策や遊休農地の再利用及び新規就農者の育成確保につながる。各種事業を展開することで米の需給調整や新規作物(いちご等)など地域農業の振興に役立つ。会社勤めからいちご栽培に変更したい人などへの支援を行ってはどうか。 基幹産業である農業経営問題の解消は、重要かつ難しい問題かと思うが、担い手の確保や農業法人への対応など広い視野をもって事業の充実を図ってほしい。 				評価			
						A			

事業評価シート

基本情報	担当課	農政課	係名	農村振興係					
	基本目標	“産業・しごと・活力”のまちづくり		施策	農業の振興				
	基本施策	農業の振興		事業	土地改良施設維持管理適正化事業				
	具体的な事業の概要・説明	農業用水路や施設等の機能維持を図るため、土地改良区等が実施する施設の修繕・補修整備等への支援を行う。							
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	事業の実施 (実施：1、未実施：0)				1	0	1		
					1				
	上段：目標値/下段：実績値								
	<p>事業の実施</p> <p>■ 目標 ■ 実績</p>								
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント					評価	
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）					A	
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
		C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
	2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる					A	
		B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある						
		C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある						
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる					A		
	B	事業の目的の達成には改善が必要である							
	C	事業の目的を達成することが困難である							
	評価の理由								
	国庫補助事業を活用し施設等の機能維持を図っている。（国30%、県30%）								
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向っていない			
	上記設問において2または1を選択した理由（目標達成に向けての問題点）								
事業分析	今後の取組	老朽化している施設や水路もあることから、今後も支援を継続して行う。							
2次評価	コメント	<ul style="list-style-type: none"> 水路や施設の修繕、補修は必要な事である。農家側の目線に立って、取組んでほしい。 水路整備の修理・維持・改善は、大切なことと考える。水路の整備と同様に、水路に不法投棄がされていたりして流れがスムーズにできてないところも目立つように感じることから、水路の管理組合等との連絡を図って対処されたい。 					評価		
							A		

事業評価シート

基本情報	担当課	商工課			係名	商工振興係				
	基本目標	“産業・しごと・活力”のまちづくり			施策	商業の振興				
	基本施策	商業の振興			事業	プレミアム商品券事業				
	具体的な事業の概要・説明	人口減少社会の到来や、経済のグローバル化、消費行動の多様化など、商業を取り巻く状況が変化し、さらに新型コロナウイルス感染症の影響により大変厳しい状況に置かれている町内の小規模小売業への支援として、プレミアム商品券の発行に対する補助を行い、消費喚起とともに購買力の地元誘導を図る。								
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	商品券の周知	回	- 4	4 5	4 4	4 4	4 4	4 4	4 4	
	商品券利用可能店舗	店	- 77	90 114	90 130	90	90	90	90	
	上段：目標値/下段：実績値									
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント						評価	
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）						A	
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある							
		C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない							
2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる						A		
	B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある								
	C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある								
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる						A		
	B	事業の目的の達成には改善が必要である								
	C	事業の目的を達成することが困難である								
評価の理由										
商品券発行の周知回数、商品券利用可能店舗数ともに目標を達成した。特にこのコロナ禍において厳しい状況にある小規模小売業に対して、消費喚起及び購買力の地元誘導に寄与できたと考えられる。										
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない				
	上記設問において2または1を選択した理由（目標達成に向けての問題点）									
事業分析	今後の取組	コロナ後の状況を見据え、より状況に即した事業を展開していくため、プレミアム率や発行数の検討を行う。								
2次評価	コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・町内小規模小売業の売上がUPするように、店側の努力に対して後押しをより積極的に行ってほしい。 ・商品券によって地域の小売店にどのような効果があったか等のデータがあった方が良いと思う。そのデータをできるだけわかりやすく詳細にまとめ、広報するなどして、各商店の参加意識が高まることを期待したい。 ・赤券青券の活用の問題がある。青券を無くし、共通して使用出来るように改善が必要だと思う。購入時の抽選についても、出来るだけ一世帯に集中しない様な配慮を。 						評価		
		A								

事業評価シート

基本情報	担当課	都市建設課			係名	整備係			
	基本目標	“安心安全・定住”のまちづくり			施策	交通安全・防災体制の充実			
	基本施策	交通安全・防災体制の充実			事業	交通安全施設整備事業			
	具体的な事業の概要・説明	防護柵の設置、区画線設置等、交通安全の推進を図る。 ・転落等の危険箇所へ防護柵を設置、通学路の区画線設置、またそれらの修繕を実施する。							
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	防護柵・区画線設置延長	m	- 1313.4	2100 2306.7	2100 3239.1	2100	2100	2100	2100
上段：目標値/下段：実績値									
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント					評価	
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）					B	
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
		C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
	2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる					A	
		B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある						
		C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある						
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる					A		
	B	事業の目的の達成には改善が必要である							
	C	事業の目的を達成することが困難である							
評価の理由									
交通事故を防ぐための交通安全対策は非常に重要であり、継続的に実施する。									
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向っていない			
	上記設問において2または1を選択した理由（目標達成に向けての問題点）								
事業分析	今後の取組	・防護柵については、部材が損傷している箇所の修繕や転落の危険性のある箇所の設置を推進する。 ・区画線は消えている箇所の書き直しや、必要箇所の新設を推進する。							
	コメント	・区画線が薄くなって見づらい所の補修を早いうちに行うようお願いしたい。 ・通学路が優先で行なわれているのはいいと思われる。 ・子供の通学の安全に不可欠な事業。道路、交通事情は刻々と変化することから安全の維持向上に本事業は有効であると考えられる。 ・交通安全面から定期的なパトロールをして危険箇所の発見を。危険箇所が発見されたら、即対応してほしい。 ・危険箇所の洗い出しを行い、より安全安心な環境作りに取り組んでほしい。					評価		
							A		

事業評価シート

基本情報	担当課	都市建設課			係名	整備係				
	基本目標	“安心安全・定住”のまちづくり			施策	市街地の整備				
	基本施策	市街地の整備			事業	公園通り整備事業				
	具体的な事業の概要・説明	主要地方道真岡上三川線を起点とし、富士山地区を経由し、主要地方道宇都宮結城線を結ぶ町の重要な都市計画道路を整備する。 ・全体計画 主要地方道真岡上三川線から主要地方道宇都宮結城線まで L=830m ・未整備区間 主要地方道真岡上三川線から富士山プール付近まで L=380m								
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	工事完成延長	m	-80	150 154.2	130 164.5					
	上段：目標値/下段：実績値									
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント						評価	
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）						B	
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある							
		C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない							
2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる						A		
	B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある								
	C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある								
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる						A		
	B	事業の目的の達成には改善が必要である								
	C	事業の目的を達成することが困難である								
評価の理由										
・町道2-22号線(公園通り)は町の重要な都市計画道路であり、早期完成を目指している。										
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない				
	上記設問において2または1を選択した理由(目標達成に向けての問題点)									
事業分析	今後の取組	令和3年度末で完成し、開通した。								
2次評価	コメント	・2-22号線沿いの空き地と歩道の落差が大きい所がある。落ちると大きなケガにつながると思われるので早急に手を打っていただきたい。 ・通学路に段差があるとちょっとしたはずみで自転車のパンクなどにつながるため、何らかの対策を講じてほしい。						評価		
								A		

事業評価シート

基本情報	担当課	都市建設課			係名	都市計画係			
	基本目標	“安心安全・定住”のまちづくり			施策	市街地の整備			
	基本施策	市街地の整備			事業	富士山地区市街地整備事業			
	具体的な事業の概要・説明	<ul style="list-style-type: none"> 富士山地区の良好な居住環境の形成と生活利便性快適性の向上を目的とし、道路整備や街区形成といった市街地整備事業を推進する。令和2年度末時点での残事業は以下のとおり。 町道1-17号線道路改良工事 (仮称) 富士山南公園整備 							
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	道路整備率	%	- 85.7	85.7	100 100	100	100	100	100
	公園整備箇所数	箇所	- 0	1 1	1 1	2	2	2	2
	上段：目標値/下段：実績値								
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント					評価	
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）					B	
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
		C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる					A		
	B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある							
	C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある							
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる					A		
	B	事業の目的の達成には改善が必要である							
	C	事業の目的を達成することが困難である							
評価の理由									
<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度に道路整備が完了、また令和4年度予定の公園についても用地買収が完了しており、目標達成の見込みが高い。 基盤整備が進んだ結果、市街化区域内の低、未利用地において民間事業者による宅地開発が盛んに行われており、高い事業効果がみられる。 									
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向っていない			
	上記設問において2または1を選択した理由(目標達成に向けての問題点)								
事業分析	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 事業の終盤であり、完了に向けて事業計画のとおり整備を進める。 民間事業者による宅地開発においては、優良な宅地供給を図るため、開発計画の事前相談等があった場合は適切な指導及び助言を行う。 							
2次評価	コメント	<ul style="list-style-type: none"> 若者を中心に住宅取得を促し、町に定住してもらう対策として有効であると思う。他市町村から町に移り住み、人口増加、若者増加が町の発展と活性化につながっている。 上三川は住み良い町と他町から来られた方から言われる。上三川に入ると暖かさを感じるの、公園や道路が整備されている為だと思う。 現状において、集落性が見込まれてきている地域等に対して、定住促進の観点からも開発の基準について、広く検討し、人口増のための基盤整備を議論してほしい。 					評価		
			A						

事業評価シート

基本情報	担当課	都市建設課		係名	管理係				
	基本目標	“自然・環境”のまちづくり		施策	公園・緑地・水辺空間の整備				
	基本施策	公園・緑地・水辺空間の整備		事業	公園維持管理事業				
具体的な事業の概要・説明	<p>本町における公園については、現在36公園（緑地公園含む）あり、業務委託による管理を実施している。適正な維持管理を行っており、また、社会資本整備事業交付金を活用し、遊具等の更新を実施している。</p> <p>① 利用者にとって安全かつ快適な環境を提供する。 ② 安全かつ快適な環境を提供し、利用者の増加を図り、町民の健康管理及び余暇の充実につなげる。</p>								
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	都市公園設置状況（都市緑地含む）	所	- 35	36 36	37 36	38	39	39	40
	都市公園利用者数（有料施設）	人	- 65545	- 37116	45000 43786	50000	55000	60000	65000
上段：目標値/下段：実績値									
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント					評価	
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）					B	
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
		C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
	2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる					A	
		B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある						
C		事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある							
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる					A		
	B	事業の目的の達成には改善が必要である							
	C	事業の目的を達成することが困難である							
評価の理由									
快適な公園環境を維持することで、利用者の増加と満足度が高くなる。一方で、利用者数及び利用者の満足度を測ることは難しいため、日常の維持管理と計画的な改修を行い、利用者の安全や事故防止につなげられた。									
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない			
	上記設問において2または1を選択した理由（目標達成に向けての問題点）								
事業分析	今後の取組	利用者の公園環境整備に関する要望が年々高くなる一方であり、適切な管理を目指す必要がある。また、長寿命化計画による地域の実情に合わせた改修と交付金等を導入し改修工事を実施する。							
2次評価	コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍に於ける公園利用者は増加傾向にあり、外出できない分近くの公園で遊ぶ子供達が多くなっている。適正な遊具の設置は必要。継続して欲しい。 ・単に、法令上必要だから公園を作るということではなく、利用目的をしっかりと持たせた公園づくりを。環境整備の問題(ゴミ等)に関して課題があると思うが、町、近隣の住民、企業との共働で整備をしていただきたい。 					評価		
		A							

事業評価シート

基本情報	担当課	建築課	係名	住宅係						
	基本目標	“安心安全・定住”のまちづくり		施策	住宅施策の充実					
	基本施策	住宅施策の充実		事業	定住のための住宅取得支援事業					
	具体的な事業の概要・説明	町内指定区域の新築住宅、町内全域の中古住宅を取得した若い世帯に対し、固定資産税相当額等を支援することにより、町外への人口流出を防ぎ、町外からの移住を促進し、安定した人口・税収の確保、地域の活性化につなげる。								
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	定住促進住宅取得支援助成件数 (累計)	件	- 14	40 34	64 44	88	120	-	-	
	上段：目標値/下段：実績値									
	<p>定住促進住宅取得支援助成件数 (累計)</p> <p>■ 目標 ● 実績</p>									
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント					評価		
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる (法に抵触する)					B		
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある							
		C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない							
	2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる					A		
		B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある							
		C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある							
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる					B			
	B	事業の目的の達成には改善が必要である								
	C	事業の目的を達成することが困難である								
評価の理由										
助成によってさらなる定住の促進を図るため、助成の条件や周知方法の見直しが必要である。										
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向っていない				
	上記設問において2または1を選択した理由 (目標達成に向けての問題点)									
事業分析	今後の取組	広報・HPによる周知を継続して行っていく。また、かみたんメールやSNS等での周知について検討する。								
2次評価	コメント	<ul style="list-style-type: none"> 今後対象区域を広げるなどの検討を行ってほしい。 町外からの移住を促進する為には非常に有効な支援メニューだと思う。特に県外から企業を誘致する場合等は多くの移住者が見込まれる。そういった場合の関連部署との連携を密にして、PRしていくと良いのではないかと。 					評価			
							B			

事業評価シート

基本情報	担当課	上下水道課		係名	下水道工務係				
	基本目標	“安心安全・定住”のまちづくり		施策	上・下水道の整備				
	基本施策	上・下水道の整備		事業	特定環境整備事業				
	具体的な事業の概要・説明	<p>【事業概要】公共用水域の水質悪化を防止し、住民の健康的で快適な生活環境を確保する。</p> <p>【事業内容】上三川町全町下水道化構想に基づき、主として市街化調整区域の管渠整備を行うものとし、上三川西部地区のうち石田地内の汚水管整備する。</p>							
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	認可区域内の汚水整備率	%	- 89.0	89.7	90.4 90.2	91.1	91.8	92.3	93.0
	汚水処理人口普及率	%	- 97.5	97.7 98.2	97.9 98.5	98.1	98.2	98.3	98.4
	上段：目標値/下段：実績値								
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント					評価	
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）					A	
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
		C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる					A		
	B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある							
	C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある							
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる					A		
	B	事業の目的の達成には改善が必要である							
	C	事業の目的を達成することが困難である							
評価の理由									
下水道の整備に伴い河川の水質改善が図られており目標値の達成まであと少しであることから、引続き事業を実施する必要があるため。									
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない			
	上記設問において2または1を選択した理由（目標達成に向けての問題点）								
事業分析	今後の取組	各家庭の雑排水を水路等に放流している場合が多く、公共下水道への接続推進が重要になるため、本管の整備と併せて各家庭へ説明を行い、下水道接続の水洗化に努める。							
2次評価	コメント	<p>・公共下水道に未接続の家庭に対しては「なぜ工事をする必要があるのか」を伝え続け、納得のいく方法が見つけられるよう取り組んで頂きたい。</p> <p>・現在公共下水道に接続していない家庭等への加入促進のためのPRや、考えられる老朽化への対応を計画的に策定し、よりよい環境整備を。</p>					評価		
							A		

事業評価シート

基本情報	担当課	上下水道課	係名	下水道業務係					
	基本目標	"安心安全・定住"のまちづくり	施策	上・下水道の整備					
	基本施策	上・下水道の整備	事業	流域下水道事業					
	具体的な事業の概要・説明	<p>【事業概要】上三川町・宇都宮市・下野市の2市1町の公共下水道区域から排除される汚水の処理する。</p> <p>【事業内容】栃木県が設置し管理する鬼怒川上流流域下水道中央処理区の処理場、ポンプ場、資源化工場及び管渠の建設費、維持管理費の本町負担分を負担する。</p>							
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	河川等の水質保全 (武名瀬川の水質・BOD:2.0mg/L 以下が正常)	mg/L	- 1.7	2.0 1.6	2.0 1.6	2.0	2.0	2.0	2.0
	河川等の水質保全 (武名瀬川の水質・SS: 25.0mg/L以下が正常)	mg/L	- 8.9	25.0 3.4	25.0 3.8	25.0	25.0	25.0	25.0
	上段：目標値/下段：実績値								
<p>河川等の水質保全 (BOD)</p>					<p>河川等の水質保全 (SS)</p>				
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント				評価		
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる(法に抵触する)				A		
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
		C	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる(法に抵触する)						
	2 事業の効率性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある				A		
		B	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
		C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある						
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる				A			
	B	事業の目的の達成には改善が必要である							
	C	事業の目的を達成することが困難である							
評価の理由									
町単独で処理場を運営するよりも2市1町で汚水処理を実施することで、効率的に運営することができ河川の水質保全につながったため。									
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向っていない			
	上記設問において2または1を選択した理由(目標達成に向けての問題点)								
事業分析	今後の取組	施設の更新時期により、今後は設備の修繕又は更新による維持管理費の増大が想定される。原油価格の高騰による施設の運転に必要な燃料費の増加による負担金の増加が予想される。							
2次評価	コメント	<ul style="list-style-type: none"> 武名瀬川の水質が良くなっていることを、地元住民が認めている。 単年度で多額の予算を組む必要がないように施設等の修繕や維持管理を計画していく必要性を感じる。 				評価			
						A			

事業評価シート

基本情報	担当課	教育総務課	係名	学校教育係					
	基本目標	“子ども・健康・福祉”のまちづくり	施策	学校教育の充実					
	基本施策	学校教育の充実	事業	各種行事大会参加事業					
	具体的な事業の概要・説明	中学校の体育的活動・文化的活動等の行事大会に参加する生徒の交通費を負担することにより、学校教育活動の充実を図る。							
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	部活動への積極的加入の促進	校	- 3	3 3	3 3	3	3	3	3
	(参考数値) 車両借上に係る費用	千円	- 4,990	5,000 209	5,000 4,763	5,000	5,000	5,000	5,000
	上段：目標値/下段：実績値								
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント						評価
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる (法に抵触する)						A
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
		C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる						A	
	B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある							
	C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある							
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる						A	
	B	事業の目的の達成には改善が必要である							
	C	事業の目的を達成することが困難である							
評価の理由									
令和3年度については、コロナ禍の影響で各種行事・大会が中止されたものもあり、車両借上に係る費用が目標より少なかったが、そのような中でも参加費用について助成することにより、部活動への参加を促進をすることが出来た。									
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向っていない			
	上記設問において2または1を選択した理由(目標達成に向けての問題点)								
事業分析	今後の取組	コロナウイルスの感染状況を注視し、安全面を考慮した上で、可能な限り行事・大会への参加を促し、学校教育の充実を図ってゆく。							
2次評価	コメント	<ul style="list-style-type: none"> 過去は家族が送迎していた事があったが、交通費を負担していただく事によって安心して子供を送り出せる。 部活動の積極的参加を促進するとともに、先生へのフォローも早期にできる体制づくりを積極的に進めていただきたい。 						評価	
								A	

事業評価シート

基本情報	担当課	教育総務課	係名	学校教育係							
	基本目標	“子ども・健康・福祉”のまちづくり		施策	学校教育の充実						
	基本施策	学校教育の充実		事業	学校図書館司書配置事業						
	具体的な事業の概要・説明	専門的な知識を持った司書を各校に配置することにより小・中連携や事務の共同化、又、学校図書館の学習情報センターとしての機能の充実を図る。									
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	学校図書利用冊数 (対前年比)	%	97.82	100.00 136.41	100.00 116.60	100.00	100.00	100.00	100.00		
	上段：目標値/下段：実績値										
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント							評価	
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる (法に抵触する)							A	
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある								
		C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない								
2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる							B		
	B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある									
	C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある									
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる							A		
	B	事業の目的の達成には改善が必要である									
	C	事業の目的を達成することが困難である									
評価の理由											
図書館ネットワークによる運営により、各校及び町立図書館との相互貸借によりそれぞれの蔵書を効率的に有効活用することができており、貸出冊数も伸びており、児童・生徒にとって魅力ある学校図書館を維持するためには、学校司書は必要不可欠である。											
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない					
	上記設問において2または1を選択した理由 (目標達成に向けての問題点)										
事業分析	今後の取組	①魅力ある蔵書資料の整備を行い、児童・生徒の図書館利用率の向上に務める。 ②図書館間の貸出や各教科対応によるクラス単位での貸出など、所有する図書の有効的な活用を進める。 ③町立図書館との連携を図る。 安定した人材の確保と人材育成が課題である。									
2次評価	コメント	・魅力ある図書館を維持する為に、是非、子供側からみた「また行きたくない図書館」作りに注力。 ・主に利用されている図書の把握をすることで、利用されていない図書をあぶり出して、図書入れ替えをすることも大切な事ではないか。							評価		
									A		

事業評価シート

基本情報	担当課	教育総務課		係名	学校教育係					
	基本目標	“子ども・健康・福祉”のまちづくり			施策	学校教育の充実				
	基本施策	学校教育の充実			事業	学級運営等改善事業（小学校）				
	具体的な事業の概要・説明	集団生活が困難であったり、一斉指導では課題を十分に理解することが困難な児童に対し、きめ細やかな指導を行うため、指導員・補助員を配置する。 ①特別教育指導員 児童の個別又は小集団による学習指導を行う。 ②特別支援補助員 指導困難な児童が複数いる学級での学習指導及び集団生活への適応指導の補助を行う。								
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	指導員・補助員の配置校	校	- 7	7	7	7	7	7	7	
	指導員・補助員の配置数	人	- 14	14	14	14	14	14	14	
	上段：目標値/下段：実績値									
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>指導員・補助員の配置校</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>指導員・補助員の配置数</p> </div> </div>										
定性評価	評価の観点		基準	評価のポイント					評価	
	1	事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）					A	
			B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
			C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
2	事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる					A		
		B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある							
		C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある							
3	事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる					A		
		B	事業の目的の達成には改善が必要である							
		C	事業の目的を達成することが困難である							
評価の理由										
障がいのある児童に対しては、個々の特性を十分に理解した上で指導や支援を行う必要があり、学級担任のみでは指導に限界があることから、指導員・補助員の配置が必要である。										
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない				
	上記設問において2または1を選択した理由（目標達成に向けての問題点）									
事業分析	今後の取組	障がいのある児童の集団における力を伸ばす支援体制を維持し、個々の特性に配慮したきめ細やかな指導を行いながら、適正な学級運営を行う。								
2次評価	コメント	・現場のニーズに合った指導員・補助員の確保に努めてもらえたらと思う。 ・教育方法に正解はなく、様々だと思う。今後も、子供の目線で取組んでほしい。							評価	
									A	

事業評価シート

基本情報	担当課	教育総務課	係名	学校教育係							
	基本目標	“子ども・健康・福祉”のまちづくり		施策	学校教育の充実						
	基本施策	学校教育の充実		事業	学級運営等改善事業（中学校）						
	具体的な事業の概要・説明	集団生活が困難であったり、一斉指導では課題を十分に理解することが困難な生徒に対し、きめ細やかな指導を行うため、指導員・補助員を配置する。 ①特別教育指導員 生徒の個別又は小集団による学習指導を行う。 ②特別支援補助員 指導困難な生徒が複数いる学級での学習指導及び集団生活への適応指導の補助を行う。									
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	指導員・補助員の配置校	校	-	3	3	3	3	3	3		
	指導員・補助員の配置数	人	-	7	7	7	7	7	7		
	上段：目標値/下段：実績値										
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント						評価		
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）						A		
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある								
		C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない								
2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる						A			
	B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある									
	C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある									
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる						A			
	B	事業の目的の達成には改善が必要である									
	C	事業の目的を達成することが困難である									
評価の理由											
障がいのある生徒に対しては、個々の特性を十分に理解した上で指導や支援を行う必要があり、学級担任のみでは指導に限界があることから、指導員・補助員の配置が必要である。											
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない					
	上記設問において2または1を選択した理由（目標達成に向けての問題点）										
事業分析	今後の取組	障がいのある生徒の集団における力を伸ばす支援体制を維持し、個々の特性に配慮したきめ細やかな指導を行いながら、適正な学級運営を行う。									
2次評価	コメント	・各校の実情に沿った人員配置で取組んでほしい。 ・小学校同様きめ細やかな教育を目指して頑張ってほしい。						評価			
								A			

事業評価シート

基本情報	担当課	教育総務課	係名	学校教育係						
	基本目標	“子ども・健康・福祉”のまちづくり	施策	学校教育の充実						
	基本施策	学校教育の充実	事業	小学校教師用指導書等整備事業						
	具体的な事業の概要・説明	小学校用教科用図書新規採択及び学級数に合わせて、必要な指導書及び指導者用デジタル教科書を整備する。								
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	学校への整備状況	点			3	3	3	3	3	
	必要図書を全て配布できた	3			2					
	必要図書を概ね配布できた	2								
	配布に不足があった	1								
	配布できなかった	0								
	上段：目標値/下段：実績値									
	定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント				評価		
		1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）				A		
B			休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある							
C			休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない							
2 事業の効率性		A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる				A			
		B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある							
		C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある							
3 事業の有効性		A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる				A			
		B	事業の目的の達成には改善が必要である							
		C	事業の目的を達成することが困難である							
評価の理由										
令和3年度は、概ね各学校が希望する冊数を配付することができた。										
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向っていない				
	上記設問において2または1を選択した理由（目標達成に向けての問題点）									
事業分析	今後の取組	これからも4年に1度教科書採択があるため、当該年度に関しては予算規模が増大することが予想されるが、学校現場と連携して整備数量の精査を図り、各学校の希望に沿った配布を目指す。								
2次評価	コメント	<ul style="list-style-type: none"> デジタル化、ペーパーレスの時代で、利便性向上と環境保全の観点からも取り組みは必要である。 学校現場と情報共有して対応してほしい。 全国的な展開に同調して、メリットデメリットのすみ分けをし、対応していく事が必要と考える。 				評価				
						A				

事業評価シート

基本情報	担当課	教育総務課	係名	学校教育係						
	基本目標	“子ども・健康・福祉”のまちづくり	施策	学校教育の充実						
	基本施策	学校教育の充実	事業	中学校教師用指導書等整備事業						
	具体的な事業の概要・説明	中学校用教科用図書新規採択及び学級数に合わせて、必要な指導書及び指導者用デジタル教科書を整備する。								
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	学校への整備状況	点			3	3	3	3	3	
	必要図書を全て配布できた	3			2					
	必要図書を概ね配布できた	2								
	配布に不足があった	1								
	配布できなかった	0								
	上段：目標値/下段：実績値									
	<p>学校への整備状況</p> <p>4 2 0</p> <p>R1... R2 R3 R4 R5 R6 R7</p> <p>■ 目標 ● 実績</p>									
	定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント				評価		
		1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）				A		
B			休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある							
C			休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない							
2 事業の効率性		A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる				A			
		B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある							
		C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある							
3 事業の有効性		A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる				A			
		B	事業の目的の達成には改善が必要である							
		C	事業の目的を達成することが困難である							
評価の理由										
令和3年度は、概ね各学校が希望する冊数を配付することができた。										
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向っていない				
	上記設問において2または1を選択した理由（目標達成に向けての問題点）									
事業分析	今後の取組	これからも4年に1度教科書採択があるため、当該年度に関しては予算規模が増大することが予想されるが、学校現場と連携して整備数量の精査を図り、各学校の希望に沿った配布を目指す。								
2次評価	コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルライゼーションによって、更に指導者も学ぶべきことが出てくると思う。指導者のフォローもお願いしたい。 ・教師用指導書は教師が指導するのに最も重要なもの。このまま継続して実施してほしい。 				評価				
						A				

事業評価シート

基本情報	担当課	生涯学習課			係名	生涯学習係			
	基本目標	“人・文化・スポーツ”のまちづくり			施策	生涯学習の充実			
	基本施策	生涯学習の充実			事業	かみのかわ図書ネットワーク運営事業			
	具体的な事業の概要・説明	指定管理者制度の導入後においても町立図書館・学校図書館間を情報及び物流のネットワークにより、資源の有効活用を図る。							
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	開館日数	日	- 317	315 288	315 281	315	315	315	315
	図書の貸出点数	人	- 142,567	145,000 105,413	145,000 114,506	145,000	145,000	145,000	149,000
	上段：目標値/下段：実績値								
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント				評価		
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）				A		
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
		C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる				A			
	B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある							
	C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある							
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる				B			
	B	事業の目的の達成には改善が必要である							
	C	事業の目的を達成することが困難である							
評価の理由									
図書館・各小中学校図書館間の連携をすることで図書資源の有効活用を図っている。									
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない			
事業分析	今後の取組	図書館と各小中学校の図書室との連携だけでなく、小中学校間での連携を取ることで、更なる図書資源の有効活用を図っていく。							
2次評価	コメント	<ul style="list-style-type: none"> 今後電子書籍を導入してデジタル化も進めていってほしいと思う。 デジタル化の時代ではあるが本を読むことは、創造力や発想力、知識を高める点で重要と考える。 図書館や各小中学校図書館の連携は必要な事業。お互いの情報交換は継続して実施してほしい。 				評価			
						A			

事業評価シート

基本情報	担当課	生涯学習課			係名	公民館係			
	基本目標	“人・文化・スポーツ”のまちづくり			施策	生涯学習の充実			
	基本施策	生涯学習の充実			事業	生涯学習推進事業			
	具体的な事業の概要・説明	町民の生涯学習を推進するため、必要課題、要求課題を解決する主催講座を開催し、自発的な学習活動及び学習交流から地域交流への促進を図り、よりよい人づくりを目指す。							
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	公民館各種講座等受講者人数	人	- 7,469	9,000 1,907	9,000 3,512	9,000	9,000	9,000	9,000
	上段：目標値/下段：実績値								
	<p>公民館各種講座等受講者人数</p> <p>10,000 5,000 0</p> <p>R1... R2 R3 R4 R5 R6 R7</p> <p>■ 目標 ● 実績</p>								
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント					評価	
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）					A	
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
		C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる					A		
	B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある							
	C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある							
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる					B		
	B	事業の目的の達成には改善が必要である							
	C	事業の目的を達成することが困難である							
評価の理由									
主催講座開催にあたり、より興味を持つ内容を検討しなければならない（R2年度は、新型コロナウイルスの影響により、施設休館及び事業中止が多かった）									
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない			
	上記設問において2または1を選択した理由（目標達成に向けての問題点）	①参加者の年代が高いこともあり、新型コロナウイルスの影響が大きい ②講座の内容を検討する必要はあるが、目標値が高すぎた							
事業分析	今後の取組	高齢者や子育て世代の母親など、公民館講座に参加しやすい年代を対象とした講座を開催しているが、参加者数が伸びず定員に達しない講座がある。また、定年を迎えた年代などの参加も少なく、各世代に興味をもってもらえる内容を検討する。							
2次評価	コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・若い方の参加が少ないとの事だが、共働き世帯対応のためにも開催日を土日や平日の夜とするなど試行してみるのはいかがでしょうか。 ・受講人数が少ないのはコロナ禍で、人数制限が影響していると思う。講座によっては、受講したいが人数制限の為受講出来ない、との情報もある。講座数も数年前より増えて来ており受講者数もコロナが収束すれば伸びていくのでは。 ・R2～R3について、講座の開催が少ない中でも受講者は伸びてきている。今後も積極的に開催していく事は大切だと考える。目標値を下げることなく頑張っていたきたい。 					評価		
			A						

事業評価シート

基本情報	担当課	生涯学習課			係名	スポーツ係				
	基本目標	"人・文化・スポーツ"のまちづくり			施策	スポーツの振興				
	基本施策	スポーツの振興			事業	体育施設等指定管理事業				
	具体的な事業の概要・説明	上三川町体育施設及び都市公園（有料施設）の管理運営を効果的かつ効率的に行うため、指定管理者制度を導入し自主事業等の開催により利用者の満足度の向上をはかる。								
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	有料施設年間利用者数	人	- 96300	100000 56768	110000 90080	120000	130000	140000	150000	
	利用者アンケート（満足・大満足）	%	-	43	50	50	50	50	50	
	指定管理者の管理運営・改善状況		39.7	50	59					
上段：目標値/下段：実績値										
定性評価	評価の観点		基準	評価のポイント					評価	
	1	事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）					B	
			B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
			C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
	2	事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる					A	
B			現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある							
C			事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある							
3	事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる					A		
		B	事業の目的の達成には改善が必要である							
		C	事業の目的を達成することが困難である							
評価の理由										
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況		5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない			
事業分析	今後の取組		施設の修繕等が終了し、指定管理者が行う自主事業等で利用者が増え、町民の健康増進につながる。							
2次評価	コメント		<ul style="list-style-type: none"> ・上三川町体育施設・都市公園の管理運営に指定管理制度を導入したことは、適当であったと思う。 ・町民の健康増進につながるため、指定管理者制度を導入し利用者満足度の向上を図ることは、良い施策だと思う。 ・改装し整備され、より良くなった施設(駐車場スペースも含めて)のPR等を。大きな大会等が開催されている場合は、その事前PRも含めて、この施設に足を思ってもらえる機会を増やしてほしい。良い施設の存在を外部にもっとPRしてほしい。 					評価		
			A							

事業評価シート

基本情報	担当課	生涯学習課			係名	スポーツ係				
	基本目標	“人・文化・スポーツ”のまちづくり			施策	スポーツの振興				
	基本施策	スポーツの振興			事業	テニスコート人工芝改設事業				
	具体的な事業の概要・説明	建設から約40年以上が経過し、人工芝の劣化が激しくなってきたため、近年は亀裂等の激しいところの部分改修を実施してきたが、劣化速度が速く部分修繕で対処することが困難であり、また、部分改修に伴い生じる段差が利用者に対し危険であることから、人工芝の全面張替えを実施した。								
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	週一回以上の運動をしている町民の割合	%	25.7						30.0	
	スポーツ施設の利用者数	人	96300	100000 56768	110000 90080	120000	130000	140000	150000	
	上段：目標値/下段：実績値									
<p>週一回以上の運動をしている町民の割合</p>					<p>スポーツ施設の利用者数</p>					
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント						評価	
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）						B	
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある							
		C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない							
2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる						B		
	B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある								
	C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある								
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる						A		
	B	事業の目的の達成には改善が必要である								
	C	事業の目的を達成することが困難である								
評価の理由										
日々の運動を行うためには、そのための施設の適切な整備が必要不可欠であることから										
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない				
	上記設問において2または1を選択した理由（目標達成に向けての問題点）									
事業分析	今後の取組	オムニコート（人工芝コート）は適切な量の砂を入れ使用するが、一部利用者が、コート整備用のブラシを使用し砂を一部除去して使用するなど、不適切な使用のため施設の寿命を縮めてしまっていたことから、施設利用者に対し施設の適切な利用法を徹底させる。								
2次評価	コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・オムニコートの入替は、プレイヤーにとって非常に良い。導入コストはかかるが、ランニングコストがかからないことがメリットだと思う。又、テニスコートのほとんどがオムニコートであり試合も同様のコートを使用することを鑑みると、効果はあると思う。 ・正しい利用方法を周知し、より長く良い状態を維持できるよう願う。 ・使用率も高いという事から今後もこの状況が維持もしくは伸びていけば良いと考える。ただ、施設整備・維持管理等と使用料金のバランスは、把握しておく必要があると考える。 						評価		
		A								

事業評価シート

基本情報	担当課	生涯学習課	係名	生涯学習係					
	基本目標	"人・文化・スポーツ"のまちづくり	施策	生涯学習の充実					
	基本施策	生涯学習の充実	事業	中央公民館施設整備事業					
	具体的な事業の概要・説明	中央公民館の老朽化に伴い、施設の修繕等を行う。施設設備不具合による臨時休館等が無いよう適正な施設の管理・運営を実施する。							
定量評価	指標名	単位	R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	適正な施設の管理・運営 (1:実施できた、0:できなかった)		- 1	1 1	1 1	1	1	1	1
	上段：目標値/下段：実績値								
	<p style="text-align: center;">適正な施設の管理・運営</p> <p style="text-align: center;">1 0</p> <p style="text-align: center;">R1... R2 R3 R4 R5 R6 R7</p> <p style="text-align: center;">■ 目標 ● 実績</p>								
定性評価	評価の観点	基準	評価のポイント				評価		
	1 事業の必要性	A	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる（法に抵触する）				B		
		B	休止または、廃止した場合に基本目標が達成できなくなる可能性がある						
		C	休止または、廃止した場合に特に支障はなく、基本目標達成への影響もほとんどない						
2 事業の効率性	A	現状の実施方法やコストのかけ方が最善と考えられる				B			
	B	現状の実施方法やコストのかけ方に改善の余地がある							
	C	事業の実施方法やコストのかけ方を大幅に見直す必要がある							
3 事業の有効性	A	事業の目的が達成できる、または達成が期待できる				A			
	B	事業の目的の達成には改善が必要である							
	C	事業の目的を達成することが困難である							
評価の理由									
一人でも多くの町民に生涯学習を行ってもらうためには、需要に応じた講座内容の改善が一番であるが、中央公民館の場合は、古い時代の設計のために、バリアフリー化されておらず、このことから新規施設への更新によって新たな利用者の開拓が見込める。									
目標達成度	後期基本計画(R7まで)における目標達成状況	5. 目標超過	4. 目標達成	3. 目標達成が見込める	2. 目標達成が難しい	1. 目標に向かっていない			
	上記設問において2または1を選択した理由(目標達成に向けての問題点)								
事業分析	今後の取組	見送りとなっていた生涯学習の拠点施設、子育て支援の拠点施設、分庁機能（庁舎機能の一部分散配置）を統合・最適化した複合施設「生涯学習・子育て支援複合施設」の整備が決定したため、今後は新規施設の詳細設計を実施していく。							
2次評価	コメント					評価			
		<ul style="list-style-type: none"> しっかりと設計で利用者体験価値向上につながる新施設の建設を願う。 新施設整備までの間、必要最少限の維持管理をして事故等のないように努めていただきたい。 				A			